

河和田アートキャンプ

(株)応用芸術研究所 代表取締役
京都精華大学准教授

片木 孝治 2011

■アートキャンプって？

福井豪雨（2004年）の災害復興支援活動として、「夏休みの楽しみを奪われた子供たちへ元気を贈る企画」を行なってから丸7年。河和田アートキャンプでは「芸術が社会に貢献できることとは何か」を理念に掲げ、芸術の新しい枠組みについて考察し、その成果を地域振興へと転化する試みを行ってきました。それは、一般的な芸術作家の作品展示・鑑賞を目的としたアートプロジェクトとは異なり、作品の制作主旨（概念）や制作過程において、地域住民や地域生活との関わりを作品創作の原点に持ち、芸術の創作活動自体が地域振興と直結するような同時進行型の活動です。

このような考えに基づき「この地域でしか発想し得ない芸術の可能性」について探求しています。

■アートでまちづくり&まちおこし

「アートでまちづくり」という取組みの大半は、作品鑑賞に訪れる「観光客」を対象とした直接的経済効果が評価軸となります。勿論、河和田アートキャンプもその様なイベント集客を想定しない訳ではありませんが、アートキャンプが目指す大きなビジョンとしては、参加する学生と地域住民の主体的な「絆づくり」が優先事項としてあります。

河和田（地方地域）での滞在生活と、アート＝モノづくりで得られた地域産業、地域生活の実情を体験した学生達が近い将来に社会人となり、実社会で中堅になった時、彼らとの関係による経済的効果を地域にもたらすことが重要であると考えています。

■アートキャンプの活動内容

河和田アートキャンプの活動内容は「林業」「農業」「伝統」「産業」「学育」「食育」「健康」という暮らしに基づいた7つのキーワードに「アート」という要素を組み合わせ、地域と学生たちの足並みを揃えながら実施されます。2011年度は、河和田町にて同時開催された「うるしの里中道アート」への関わりを軸に、地域に溶け込みながら活動しました。

◆伝統とアート



◆学育とアート



●**林業とアート**は、森や里山への関心が薄れていくことにより山が荒れていく昨今の状況を問題視し、立枯れした木や雪害で折れた木を使用した3点の作品を制作しました。

●**農業とアート**は野菜を生産する農家と消費者の精神的距離を近づけることを目的に、軽トラックを使用した収穫祭を開催しました。

●**伝統とアート**は、日々制作に使用している画材等の減少と漆器産業の衰退を重ね合わせ、裾野を広げられるような作品を7点制作しました。

●**産業とアート**は、地元の産業に関心を持ってもらおうと、鯖江の文化遺産である石田縞を使用した「うちわ」と「小学校の図書袋」を制作しました。

●**学育とアート**は「学びに気づく」をコンセプトに、子どもたちを対象に参加者100名を超える大規模なワークショップ等を福井県内で開催しました。

●**食育とアート**は、空き家利用を考え、高校生・大学生・お年寄りを対象とした交流カフェを企画し、世代間の繋がりについて考えます。

●**健康とアート**は「歩く」という運動を防災の観点で捉え、防災訓練を備え合わせた夜間の防災ウォーキングを開催しました。

これらの活動を通し、芸術と社会、地域と次世代を担う若者の関係を構築することを目的としています。

写真提供：(株)応用芸術研究所